

## 令和六年度 第六十三回松浦高等学校入学式 式辞

春の息吹の中に、晴れて長崎県立松浦高等学校の第六十三回生となった七十二名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんの入学を、学校を挙げて心から歓迎します。

ご参列のご家族の皆様には、本日のお子様の清々しく、そして喜びに輝く姿をご覧になり、大きな感激を噛み締めておられることとお察し申し上げます。本当におめでとうございます。これからの三年間、ともに手を携えて、お子さまの教育に取り組んでまいる所存です。

また、本日はご多忙にもかかわらず、長崎県議会議員石本政弘様、松浦市長友田吉泰様をはじめとして沢山のご来賓の皆様にご臨席を賜るとともに、このふるさと・松浦、そしてこれからの未来を担う前途有望な若者たちを祝福していただき、誠にありがとうございます。

松浦高校は、昭和37年に開校し、これまで約9,800人の先輩方がこの風薫る丘で学び、校訓にある「自己開拓」の精神を身に付けて、地元の松浦はもちろんのこと、全国各地で活躍されています。

新入生の皆さんは、この歴史ある松浦高校で学ぶことになりますが、おそらく皆さんの心の中には、入学できた喜び、将来への希望、そして、これから始まる生活への期待と不安が入り混じっていることだと思います。ただし、そうした気持ちはあなただけが感じている訳ではありません。周りに座っている、今日から仲間となる同級生も同じです。

そうした皆さん方に、これから高校生活を送る上で心に留めておいてほしいことを述べたいと思います。

「Choose Your Life!」、「自分の人生は自分で選択できる」「それでもなお、人生は選べる!」というテーマで、昨年11月にハッシュタグダイソージャルの共同代表である勝山恵一さんは、まさにこの体育館で語ってくれました。

皆さんに心に留めておいてほしいことの一点目は、「高校は自分自身の人生を選択するための基盤をつくる場」である、ということです。

今の日本社会にはたくさんの課題があります。そして、残念ながらそのしわ寄せが若者に大きくのしかかり、自分で自分の人生の選択することができない状況に追い込まれている人もいます。

このような時代の中で高校に来ることで、自分の人生の全てを選ぶことができるはずはありません。ただし、授業で知識や考え方を身に付け、部活動や学校行事などで人間力を養っていくことで、人生の選択肢は大きく広がります。また、高校時代にしっかりとした基盤を固めておくことで、将来、人生を選ぶ場面に立たされた時に、大いに役に立ちます。

「自分の人生は自分で選ぶ」と考えたとして、具体的に何をやるかが、次の課題になります。

そこで重要なことが、「夢を持つ」ということです。これが、私が伝えたい二点目になります。

ここでの「夢」とは「目標」という言葉に置き換えることができる意味での「夢」です。

では、みなさんに問います。みなさんは「夢」を持っていますか？

AKBや坂道シリーズをプロデュースしてきた秋元康さんがあるラジオ番組の中で、夢について語っていました。

「夢というのは、全力で背を伸ばして、背伸びして、その1ミリ先にある」。秋元さんは、この言葉をAKBや坂道のオーディションに来た人に必ず言うそうです。

そして「夢」について、こう続けて語っています。「だけど届いてないから、触れてなくて、1メートル上か、1キロ先にあるように感じてしまう。でも実は、傍で見ていると、『あと1ミリなのにな』というのが夢なんだよね。」

つまり、自分自身では、夢の実現は遠い先のように感じられるが、他人から客観的に見るとすぐ手の届くところにありがちなのだということです。

さらに続けてこう語ります。「夢の方から離れることはないのに、見てると、皆自分の方が踵を下げるわけ。それはもったいないなと思うんだよね。だから、自分で信じるしかないんだよね。」夢の実現を、あきらめてしまう人が多くて、もったいない。最後まで自分を信じるのが大切だ、と仰っています。

秋元さんは、「僕なんかは、例えばAKBを始めようが、映画を始めようが、ドラマを始めようが、『絶対当たる!』と、『これは絶対来るはずだ! きっと俺はまだ1ミリ先に触れてないだけだ!』って信じてるね」と語っています。

10000回だめで へとへとになっても

10001回目は 何か変わるかもしれない

これは、DREAMS COME TRUEの「何度でも」という曲の歌詞です。この曲は、東日本大震災後、被災し人々を元気づけた曲として知られています。

秋元さんが語っているように、1ミリ先の夢に到達するためにもう少し頑張ってみる、ドリカムの歌のように次の一回で成功するかもしれないという可能性を信じることができる、そのようなあきらめの悪い人間であってほしいと思います。

ただし、夢の実現のため、自分の可能性を信じて前に進むのは容易ではありません。そこで重要なのが、「言葉」です。「言葉を大切にする」、これが伝えたい三点目です。

アメリカの社会心理学者であるロバート・M・マートンが、「予言の自己成就」という考え方を提唱しています。「自己成就」とは、「自分で実現する」ということです。

「予言」には、「自分が希望する大学に合格したい」という良い意味での予言と、「今度の試験では良い点数が取れそうにない」といった悪い意味での予言の両方あります。

「予言の自己成就」とは、プラスの言葉を発すれば人生は良い方向に進むという考え方で、自分の夢を言葉に表し、夢を実現するために「自分是可以する」と思い行動すれば、「できる理由」「できるためのプロセス」を考えます。

逆に、マイナスの言葉を発すれば、「できない理由」ばかり探してしまい、悪い方向に進むという考え方です。

ロサンゼルス・ドジャースの大谷翔平さんが、高校一年生の時に「8球団からのドラフト1位指名」という夢を中心にしてマンダラチャートを作成したことはよく知られています。自分の夢を実現するためのプロセスを文字にして、見える化して、やるべき行動を整理して高校生活を送ったそうです。

高校への入学は、具体的な夢を設定する非常に良い機会となります。自分自身の夢を言葉として表し、夢を実現するためのプロセスを考えてください。

もし、夢がなかなか見いだせない時には、ぜひ家族、友人、そして先生方に相談してください。

夢の実現に向けて全力で挑戦する皆さん、人生の選択に全力向き合う皆さんを、私たちも全力で支援します。そのことを約束して、式辞といたします。

令和6年4月8日

長崎県立松浦高等学校長 舟越 裕